

# ライブ感たっぷり熱唱上映

とよはしまちなかスロータウン映画祭 歌や手拍子で物語と一体に

開催中の「とよはしまちなかスロータウン映画祭」(実行委員会主催、東愛知新聞社など後援)のイベントで歌ったり、鈴などの鳴り物を使ったりできる「熱唱上映」として、英国のロックバンド「クイーン」のボーカル、故フレディ・マーキュリーを描いた「ボヘミアン・ラプソディ」が15日夜、豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場プラットで上映され、会場はライブ感たっぷりの空間となった。

(中村晋也)

前回の昨年、声を出せるなどの絶叫上映を初めて取り入れたところ、好評。今年も、今月1日に行なった「マッドマックス」怒りのデス・ロードと合わせて2作品を用意した。この日の「ボヘミアン・ラプソディ」は満席。

東三河以外の遠方から訪れる人もいて、実行委のメンバーも付けひげ、サングラスなどでフレディになりきり、歓迎した。

上映中、観客は流れる曲やストーリーに合わせ、手にした鈴を鳴らしたり、手拍子をしたり、曲「ウィー・ウィル・ロック・ユー」では足でリズムを刻み、テンポのいい「ドント・ストップ・ミー・ナウ」などで気持ちを高揚させていた。新城市から来た20代の女性2人は「ライブの



上映直後、映画の余韻が残る中、ポーズを決めて写真を撮るスタッフや観客=プラットで

ようで、めっちゃ楽しかったです。盛り上がりましました。立ち上がりたくなるほどでしたが、ぐつとこらえました」と笑顔で話した。